

Be Cool(ビー・クール)

2005(平成17)年8月8日鑑賞(東宝試写室)

★★★★



監督=F・ゲイリー・グレイ/出演=ジョン・トラボルタ/ユマ・サーマン/クリスティーナ・ミリアン/ピンス・ボーン/セドリック・ジ・エンタイナー/アンドレ・ベンジャミン/スティーン・タイラー/ロバート・パストレリ/ハーベイ・カイトル/ザ・ロック/ジェームズ・ウッズ (20世紀フォックス映画配給/2005年アメリカ映画/120分)

……ジョン・トラボルタがカリスマ・マネージャーとして、新人女性歌手の「売り出し作戦」を決行！ その動機は？ また、行く手に立ちはだかる敵対勢力たちは……？ ヘンな奴(?)がいっぱい登場するものの、主人公はあくまで「Be Cool」。ユマ・サーマンとの悩ましくもカッコいいダンスシーンを含めて、久しぶりにジョン・トラボルタのカッコ良さが満喫できるA級娯楽作！

これぞ、カリスマ・マネージャー！

この映画の主人公チリ・パーマー(ジョン・トラボルタ)は、映画プロデューサーとして成功をおさめた人物だが、今はそれに嫌気がさしており、元の職業である「取り立て屋」に戻ろうと考えていた。ところがある日、旧友のトミー・アテンズ(ジェームズ・ウッズ)から、新人歌手リンダ・ムーン(クリスティーナ・ミリアン)の売り出しを一緒にやろうと勧められ、その話を聞いていたところ、突然そのトミーがロシアン・マフィアの銃によって射殺されることに……。

これを機会にチリ・パーマーは、トミーの妻イーディ・アテンズ(ユマ・サーマン)と協力して、「リンダ売り出し作戦」をスタート。このチリ・パーマーは過去の実績と人脈、そして度胸いっぱい交渉術と冴えわたる頭脳を駆使して次々とライバルたちを蹴落としていく……。さてその結果は……？ まさにこれぞ「カリスマ・マネージャー！」というキャラクターを、タイトルどおり「Be Cool」にジョン・トラボルタが快演！

ユマ・サーマンの悩殺シーンに注目！

この映画で、イーディ・アテンズを演じるユマ・サーマンは、あくまでジョン・トラボルタの引き立て役(?)だが、『キル・ビル～KILL BILL～Vol.1』(03年)、『キル・ビル～KILL BILL～Vol.2』(04年)でのコワイ復讐鬼のイメージとは全く異なる、2つの悩殺シーンに注目！

その1つは、ユマ・サーマンがこの映画に出演した最大の理由として述べている、『パルプ・フィクション』(94年)以来のジョン・トラボルタとの再共演によって実現した、何とも悩ましげな2人のダンスシーン。

そしてもう1つは、夫が死んだ直後というのに、1人ベランダのベッドの上に寝そべて、半裸状態(?)で日光浴を楽しんでいるユマ・サーマンの姿。

どちらもユマ・サーマン最大の特徴(?)である、「長い脚」が生かされているので、その点に要注目！

敵はヘンな奴ばかり その1 ロシアン・マフィア

映画の冒頭、いきなりチリ・パーマーの旧友トミーを射殺したのはロシアン・マフィア。なぜ、大都会ロサンゼルス映画業界や音楽業界をめぐる争いにロシアン・マフィアが登場するのか私にはよくわからないが、その登場によって行動の不気味さ(?)を増していることはたしか。しかし所詮、ジョン・トラボルタを主人公とするアメリカ映画だけに、このロシアン・マフィアの扱いは冷たいもので、バカバカしい役割に限定……？

敵はヘンな奴ばかり その2 敵対マネージャー

リンダは今、ハデハデしい衣装を着て身をくねらせながら怪しげなクラブの舞台で歌っていたが、このようにリンダをしぼっているのは、ニック・カー(ハーベイ・カイトル)。とは言っても、ニックが経営するマネージメント会社は正規にリンダと5年間の契約を結んでいるのだから、それが有効であり、優先するのは当然。しかしそこは、強腕カリスマ・マネージャーのチリ・パーマーのこと、次々と強引な実行使(?)と手際よい交渉術(?)をもって、リンダを手元に

……。

この映画に登場するチリ・パーマーの敵はロシアン・マフィア以外にもヘンな奴(？)ばかり……？ ニックの手下のラジ(ピンス・ボーン)も、そして俳優志望のボディガードのエリオット・ウィルヘルム(ザ・ロック)も、そのキャラは見もの……？

敵はヘンな奴ばかり その3 ラッパー集団

チリ・パーマーの敵は「チリ・パーマーを消してしまえ」と命令したニックだけではない。トミーの残した会社で、今は妻のイーディが引き継いでいるインディーズ・レーベル社は火の車で、未払金30万ドルを抱えていた。その取り立てに乗り込んできたのが極悪プロデューサーのシン・ラサール(セドリック・ジ・エンタテイナー)とダブ(アンドレ・ベンジャミン)率いるラッパー兼ギャング集団のMD'S。

このラサールやダブたちは当然黒人集団。したがって、映画の後半、この黒人ラッパーたちがロシアン・マフィアと「対決」した時のキーワードは「ニグロ」……。ロシアン・マフィアからこの言葉を投げつけられたラサールたちがぶち切れたのは当然。そこで起こった大騒動は……？ そして、ここで漁夫の利を得たのは……？

警察もところどころに……？

いくら音楽業界のスカウト合戦が自由競争であっても、そしてまた「契約社会アメリカ」であっても、ちょっとした騙し程度ならともかく、「殺人事件」まで発生すれば、警察が動かないわけにはいかない。再三チリ・パーマーにやりこめられたニックの手下ラジは、ついにある揉め事の中、バットを振るってある人物を殺してしまうことに……。その結果、この殺人事件とバットの行方をめぐって警察も大活躍……。そしてここでも、漁夫の利を得たのは……？

クリスティーナ・ミリアンの魅力！

リンダを演じるクリスティーナ・ミリアンはキューバ系アメリカ人の両親を持

つとのことで、その歌もダンスもすごい魅力。チリ・パーマーのリンダ売り出し作戦の「ウルトラC」は、リンダを今やローリング・ストーンズと並ぶおじさんロックバンド(?)のエアロスミスと共演させること。その結果(?), エアロスミスのボーカルのスティーブン・タイラーがこの映画に出演! 既に60歳をこえているはずだが、とにかく元気そのもので、そのパワフルな舞台にはビックリ!

このエアロスミスと共演して数万人の観客からの熱狂的声援を受けたリンダが、今後「歌姫」としてスターダムにのし上がっていくことはまちがいなし。そしてそれによって、リンダをプロデュースしたチリ・パーマーやイーディも今後大もうけするであろうこともまちがいなし……?

エリオットの売り出しも大成功!

チリ・パーマーが修羅場を再三切り抜けることができたのは、ニックのボディガードであった俳優志願のエリオットが、映画プロデューサーとしてのチリ・パーマーの実績を知っていたから……? そしてチリ・パーマーは決してこのエリオットを騙すようなことはしなかった。つまり、オーディションを受けさせてやるという話はウソではなく、チリ・パーマーはきっちりとその約束を……? その結果、エリオットは何とあのハリウッドの大女優ニコール・キッドマンとともに……?

複雑だが単純、そしてスカッと……?

この映画は敵対勢力が次々と現れるから、カリスマ・マネージャーのチリ・パーマーも大変。もっとも、この映画のコンセンサスは最初から決まっているから(?), チリ・パーマーはあくまでCoolにその都度難局を乗り越え、最後にはその敵対勢力の一部も味方につけて、リンダの売り込みに大成功……。

また、ストーリーはけっこう複雑だが、要はいつもチリ・パーマーが勝つというパターンになっているから、結局は単純。さらにまた、ちょうど2時間という単純な娯楽映画にしては長いが、全然飽きることなくスカッと楽しむことができる。その点、音楽や歌手をテーマにした映画はおトク……?

小泉総理も見習ってほしかったが……？

この映画を観た8月8日は、午後1時45分に参議院本会議で郵政民営化法案が否決され、いよいよ衆議院解散・総選挙への手続が進められていた時。私は断然小泉改革支持だが、今回綿貫民輔氏や亀井静香氏などが反対派の急先鋒となったのは、要するに、小泉総理から長年にわたって冷や飯を食わされてきたため。小泉総理は本来、抵抗勢力のはずの青木幹雄氏などは、うまく小泉改革に取り込めたものの、取り込めなかった抵抗勢力による今回の造反劇を見ていると、小泉総理がこの映画におけるチリ・パーマーのように、もっとうまく立ち回ることができなかつたのかと少し残念に思うのだが……。もっともそれは逆で、このチリ・パーマーのカリスマ・マネージャーぶりは、映画だからこそできたもの……？

2005(平成17)年8月9日記

ミニコラム

9・11「総選挙」の以前と以後

参議院本会議での否決を受けて、小泉総理は直ちに衆議院を解散して総選挙へとなだれ込み、1カ月弱にわたる「小泉劇場」が展開されたことは記憶に新しい。そして、結果は自民党の圧勝。関ヶ原の合戦が天下分け目となったように、この9・11総選挙によって、日本は明確に9・11以前と9・11以後に「分断」されることになった。クールなトラボルタが好きか、それとも絶叫調の小泉総理が好きかは人それぞれだが、そう単純に色分けできるもので

はない。例大祭初日の10・17に靖国神社参拝を行った小泉総理は、口をへの字に結びあくまでクールだった……。今後も次々と現れるにちがいない敵(抵抗勢力)に対して、小泉総理がトラボルタのようにあくまでクールに立ち向かうのか、それとも絶叫節が復活するのか、それは日本の民主主義の進捗状況にかかるものだが、9・11以後は小泉総理もこの映画のトラボルタから学ぶことが多いのでは……？

2005(平成17)年10月18日記